

(様式第10)

20 福井大第 1053 号
令和 2 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名
福井大学長
上 田 孝 典 (印)

福井大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第1項及び医療法施行規則（昭和23年厚生省令第50号）第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和 元 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒 910-8507 福井県福井市文京 3 丁目 9 番 1 号
氏 名	国立大学法人 福井大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

福井大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒 910-1193 福井県吉田郡永平寺町松岡下合月 2 3 号 3 番地	電話(0776) 61-3111
---------------------------------------	--------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	☒ 有 ・ ☐ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
① 呼吸器科 ② 消化器科 ③ 循環器科 4 腎臓内科	
⑤ 神経内科 6 血液内科 7 内分泌内科 8 代謝内科	
9 感染症内科 10 アレルギー疾患内科またはアレルギー科 11 リウマチ科	
診療実績 腎臓内科、血液内科、内分泌内科、代謝内科、感染症内科、リウマチ科の診療内容は内科で提供している。 アレルギー疾患内科またはアレルギー科の診療内容は呼吸器科で提供している。	

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	☒ 有 ・ ☐ 無
外科と組み合わせた診療科名	
① 呼吸器外科	2 消化器外科
3 乳腺外科	4 心臓外科
5 血管外科	⑥ 心臓血管外科
7 内分泌外科	⑧ 小児外科
診療実績 消化器外科、乳腺外科、内分泌外科の診療内容は外科で提供している。	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

① 精神科	② 小児科	③ 整形外科	④ 脳神経外科	⑤ 皮膚科
⑥ 泌尿器科	⑦ 産婦人科	8 産科	9 婦人科	⑩ 眼科
⑪ 耳鼻いんこう科	⑫ 放射線科	13 放射線診断科	14 放射線治療科	⑮ 麻酔科
⑯ 救急科				

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	☐ 有 ・ ☒ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1 小児歯科	2 矯正歯科
3 口腔外科	④ 歯科口腔外科
歯科の診療体制 通常の歯科診療内容は歯科口腔外科で提供している。	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
- 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科	2 形成外科	3 病理診断科	4	5
6	7	8	9	10
11	12	13	14	15
16	17	18	19	20

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精 神	感染症	結 核	療 養	一 般	合 計
41 床	0 床	0 床	0 床	559 床	600 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	244 人	125 人	339.5 人	看護補助者	58 人	診療エックス線技師	0 人
歯科医師	5 人	6 人	8.8 人	理学療法士	14 人	臨床検査技師	44 人
薬 剤 師	44 人	0 人	44.0 人	作業療法士	6 人	衛生検査技師	0 人
保 健 師	0 人	0 人	0.0 人	視能訓練士	6 人	その他	0 人
助 産 師	15 人	1 人	15.7 人	義肢装具士	0 人	あん摩マッサージ指圧師	0 人
看 護 師	716 人	24 人	731.9 人	臨床工学士	12 人	医療社会事業従事者	8 人
准看護師	0 人	0 人	0.0 人	栄 養 士	1 人	その他の技術員	8 人
歯科衛生士	1 人	1 人	1.7 人	歯科技工士	1 人	事 務 職 員	187 人
管理栄養士	9 人	0 人	9.0 人	診療放射線技師	32 人	その他の職員	47 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	36 人	眼 科 専 門 医	7 人
外 科 専 門 医	25 人	耳鼻咽喉科専門医	15 人
精 神 科 専 門 医	5 人	放 射 線 科 専 門 医	14 人
小 児 科 専 門 医	17 人	脳神経外科専門医	7 人
皮 膚 科 専 門 医	4 人	整 形 外 科 専 門 医	11 人
泌尿器科専門医	13 人	麻 酔 科 専 門 医	9 人
産婦人科専門医	13 人	救 急 科 専 門 医	11 人
		合 計	187 人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (腰地 孝昭) 任命年月日 平成31年 4月 1日

平成24年4月～平成28年3月 副病院長 (医療安全担当)
平成28年4月～平成31年3月 病院長 (医療安全管理委員会委員長)
平成31年4月～現在 病院長 (医療安全管理委員会委員長)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1 日当たり平均入院患者数	484.3 人	5.4 人	489.7 人
1 日当たり平均外来患者数	936.9 人	27.4 人	964.4 人
1 日当たり平均調剤数	入院 : 788.0 剤 外来 : 38.6 剤		
必要医師数	108 人		
必要歯科医師数	3 人		
必要薬剤師数	17 人		
必要（准）看護師数	279 人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施 設 名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	183.52 m ²	鉄筋コンクリート	病 床 数	10 床	心電計	☒ 有 ・ ☐ 無
			人工呼吸装置	☒ 有 ・ ☐ 無	心細動除去装置	☒ 有 ・ ☐ 無
			その他の救急蘇生装置	☒ 有 ・ ☐ 無	ペースメーカー	☒ 有 ・ ☐ 無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積		335.91 m ²	病床数	31 床	
			m ²	病床数	床	
	[移動式の場合] 台 数		台			
医 薬 品 情報管理室	[専用室の場合] 床面積		50.82 m ²			
	[共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	225 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	検体検査自動化総合システム		
細菌検査室	68 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	全自動細菌検査システム		
病理検査室	125 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	自動薄切装置、自動染色装置		
病理解剖室	55 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	解剖台		
研 究 室	4,686 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)	リアルタイム定量PCR装置		
講 義 室	357 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	426 人
図 書 室	1,861 m ²	鉄筋コンクリート	室数	21 室	蔵書数	137,603 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹 介 率		82.8 %	逆 紹 介 率	63.5 %
算出根拠	A：紹 介 患 者 の 数		10,868 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数		9,530 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数		1,563 人	
	D：初 診 の 患 者 の 数		15,006 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
伊藤 透	金沢医科大学病院医療安全部長・教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	☐ 有 ・ ☒ 無	1
安川 繁博	福井県医師会副会長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	☐ 有 ・ ☒ 無	1
吉川 奈奈	杉原・きっかわ法律事務所		法律に関する識見を有する者	☐ 有 ・ ☒ 無	1
草桶 秀夫	前福井工業大学教授		医療を受ける者の立場から意見を延べることができる者	☐ 有 ・ ☒ 無	2
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	
				☐ 有 ・ ☐ 無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
委員の選定理由の公表の有無	☒ 有 ・ ☐ 無
公表の方法	
福井大学医学部附属病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	0 人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	12 人
ウイルスに起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	4 人
細菌又は真菌に起因する難治性の眼感染疾患に対する迅速診断(PCR法)	3 人
LDLアフェレシス療法	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先 進 医 療 の 種 類	取扱患者数
パクリタキセル静脈内投与(一週間に一回投与するものに限る。)及びカルボプラチン腹腔内投与(三週間に一回投与するものに限る。)の併用療法 上皮性卵巣がん、卵管がん又は原発性腹膜がん	0 人
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすり型又は予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0 人
多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療 褥瘡又は難治性皮膚潰瘍(美容等に係るものを除く。)	3 人
S-1内服投与、シスプラチン静脈内投与及びパクリタキセル腹腔内投与の併用療法 腹膜播種を伴う初発の胃がん	0 人
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片(増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る。)	0 人
	0 人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	術中腹腔内温熱化学療法 (HIPEC)	取扱患者数	13 人
当該医療技術の概要 大腸癌腹膜転移及び腹膜偽粘液腫を対象に治療を行っている。腹膜転移以外の切除不能因子の無い症例に対して、原発巣切除、可及的播種巣切除、リンパ節郭清等を行った後に、シスプラチン、エトポシド、マイトマイシンCを混和した生理食塩水を43℃に加温し、腹腔内を灌流している。通常の化学療法では効果がない症例でも、有効な治療効果が得られている。			
医療技術名	PET/MRI検査におけるFDGとFESの乳癌腫瘍描出能の比較	取扱患者数	46 人
当該医療技術の概要 ホルモン受容体陽性の転移再発乳癌に対してエストロゲンを用いたPET検査を施行し、ブドウ糖を用いたPET検査と比べ、乳癌腫瘍の描出に差があるか検討する。			
医療技術名	multiple gene panel 検査による遺伝性乳癌卵巣癌診断と環境要因の関連性の検討	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要 家族性腫瘍に関連する胚細胞系列27遺伝子検査結果と、患者の環境要因の関係を検討する。			
医療技術名	胚細胞系列BRCA1/2遺伝子検査	取扱患者数	6 人
当該医療技術の概要 乳癌卵巣癌の家族癌が濃厚な乳癌卵巣癌患者に対して遺伝カウンセリングと、施術後希望者にBRCA1、またはBRCA2遺伝子検査を行う。抗癌剤/オラパリブの選択、予防的卵巣切除、血縁者の乳癌卵巣癌検診を行う。			
医療技術名	股関節疾患におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 高位脱臼や臼蓋形成不全などによる高度変形をきたす股関節疾患の治療において、ナビゲーションシステムによる支援によって、より安全かつ正確な手術を行うことができる。			
医療技術名	高度変形を伴う膝関節手術におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	80 人
当該医療技術の概要 高度変形を伴う変形性膝関節症などの疾患の手術加療において、ナビゲーションシステムによる支援によって、より安全かつ正確な手術が可能となる。			
医療技術名	骨盤骨折の治療におけるナビゲーション支援手術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 重度外傷である骨盤骨折の観血的治療において、ナビゲーションシステムによる支援を行うことで、より安全かつ正確な手術を行うことができる。			
医療技術名	脊椎高度変形症例に対するナビゲーション支援手術	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 頚椎、胸椎、腰椎における高度変形症例に対しての手術時にナビゲーションを用いることで、神経損傷等の予防にもなり、また正しい変形矯正手術が可能である。			
医療技術名	側方進入椎体間固定 (XLIF/OLIF)を用いた低侵襲脊椎手術	取扱患者数	30 人
当該医療技術の概要 特別な開創器を用いることにより、通常法よりも低侵襲に固定術や制動術を行うことができる。			
医療技術名	悪性骨・軟部腫瘍に対する術中体外放射線照射自家骨移植を用いた患肢温存手術	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要 骨悪性腫瘍や軟部肉腫が骨に進展している場合、腫瘍と合併切除した骨に術中放射線照射を行い、腫瘍細胞を死滅させた後、その骨を再度骨欠損の再建に用いる。			

医療技術名	悪性骨・軟部腫瘍切除後の腫瘍用人工関節を用いた機能再建	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要			
悪性骨・軟部腫瘍を広範切除した後、腫瘍用人工関節を用いて機能再建を行う。良好な歩行能力の獲得が目標である。			
医療技術名	骨盤悪性腫瘍に対する広範切除と制御型人工股関節を用いた機能再建	取扱患者数	2 人
当該医療技術の概要			
骨盤悪性腫瘍の広範切除は、高度のテクニックを要する難易度の高い術式である。切除するだけでなく、制御型人工股関節を用いて機能再建を行い、日常生活に対応できる歩行能力獲得を目指す。			
医療技術名	腹壁または後腹膜悪性腫瘍に対する根治的治療	取扱患者数	4 人
当該医療技術の概要			
腹壁または後腹膜悪性腫瘍は、内臓臓器に腫瘍が進展していることが多いため、単一診療科での治療は困難である。また、後腹膜には腫瘍進展にたいするバリアが存在しないため、最初の手術で病変部を大きく切除することが重要である。当科では、外科、胸部外科、泌尿器科、形成外科などと密に協力して、根治的治療を行っている。			
医療技術名	培養細胞による脂肪酸代謝異常症の診断	取扱患者数	17 人
当該医療技術の概要			
末梢血単核球に標識脂肪酸を負荷して培養し、細胞内アシルカルニチンプロファイルを分析する。代謝酵素の欠損によって代謝ブロックが生じ、標識アシルカルニチンの比を用いて診断する。			
医療技術名	培養細胞によるFBPase活性測定（フルクトース1.6-ビスホスファターゼ欠損症の診断）	取扱患者数	1 人
当該医療技術の概要			
末梢血培養単核球に基質としてフルクトース1.6-2リン酸を添加し、NADPの変化量を分光光度計を用いて測定し、フルクトース1.6-ビスホスファターゼ活性を質出する。			
医療技術名	FES-PET/MRIによる乳癌リンパ節転移の診断	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要			
16 α -[18F]fluoro-17 β -estradiol (18F-FES)を用いたPET/MRI検査により、エストロゲン受容体陽性乳癌のリンパ節転移や遠隔転移を診断する。			
医療技術名	FLT-PET/MRIによる骨髄不全症の鑑別	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要			
3'-deoxy-3'-[18F]fluorothymidine (18F-FLT)を用いたPET/MRIにより、骨髄のTK-1活性を評価し骨髄不全症の鑑別を行う。			
医療技術名	11C-PiB PET/MRIによるアミロイドイメージング	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要			
アミロイドイメージングによるアルツハイマー病診断。			

（注）１ 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）２ 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	2	56	ベーチェット病	16
2	筋萎縮性側索硬化症	16	57	特発性拡張型心筋症	10
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	2
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	18	60	再生不良性貧血	14
6	パーキンソン病	86	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	4	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	14
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	1
10	シャルコー・マリー・トウス病	1	65	原発性免疫不全症候群	4
11	重症筋無力症	31	66	IgA 腎症	8
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	20
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	28	68	黄色靱帯骨化症	26
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	6	69	後縦靱帯骨化症	72
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	19
16	クロー・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	39
17	多系統萎縮症	13	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	27	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	7	74	下垂体性PRL分泌亢進症	2
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	2
21	ミトコンドリア病	8	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	0
22	もやもや病	24	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	10
23	プリオン病	1	78	下垂体前葉機能低下症	33
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	0
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	30
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	42
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	6
32	自己食空腔性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	3
34	神経線維腫症	12	89	リンパ脈管筋腫症	1
35	天疱瘡	10	90	網膜色素変性症	18
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	3	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	8
39	中毒性表皮壊死症	1	94	原発性硬化性胆管炎	1
40	高安動脈炎	7	95	自己免疫性肝炎	5
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	37
42	結節性多発動脈炎	1	97	潰瘍性大腸炎	70
43	顕微鏡的多発血管炎	6	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	4	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	4	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	1	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	パージャール病	5	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	67	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	34	105	チャージ症候群	1
51	全身性強皮症	81	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	15	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	14	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	3	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	1	110	ブラウ症候群	0

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	5
113	筋ジストロフィー	5	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	1
122	脳表ヘモジデリン沈着症	2	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	1	177	有馬症候群	0
128	ピッカースタッフ脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	1	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリス症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	2
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	ブラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンプソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	1	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳臓黄色腫症	0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクト症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	8	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	9
224	紫斑病性腎炎	0	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	1
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	1
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	0	283	後天性赤芽球癆	0
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンconi貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	1	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)	0
244	メーブルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性脾炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	2
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	11

	疾 患 名	患者数		疾 患 名	患者数
307	カナバン病	0	319	セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	0
308	進行性白質脳症	0	320	先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	0
309	進行性ミオクロースてんかん	0	321	非ケトーシス型高グリシン血症	0
310	先天異常症候群	0	322	β -ケトチオラーゼ欠損症	0
311	先天性三尖弁狭窄症	0	323	芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	0
312	先天性僧帽弁狭窄症	0	324	メチルグルタコン酸尿症	0
313	先天性肺静脈狭窄症	0	325	遺伝性自己炎症疾患	0
314	左肺動脈右肺動脈起始症	0	326	大理石骨病	0
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)／L MX1B関連腎症	0	327	特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	0
316	カルニチン回路異常症	0	328	前眼部形成異常	0
317	三頭酵素欠損症	1	329	無虹彩症	0
318	シトリン欠損症	0	330	先天性気管狭窄症	0
			331	特発性多中心性キャッスルマン病	3
			332	膠様滴状角膜ジストロフィー	0
			333	ハッチンソン・ギルフォード症候群	0

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・後発医薬品使用体制加算1
・歯科外来診療環境体制加算2	・病棟薬剤業務実施加算1
・特定機能病院入院基本料 一般病棟(7対1)	・データ提出加算
・特定機能病院入院基本料 精神病棟(13対1)	・入退院支援加算
・救急医療管理加算	・認知症ケア加算
・超急性期脳卒中加算	・精神疾患診療体制加算
・診療録管理体制加算1	・排尿自立支援加算
・医師事務作業補助体制加算1(30対1)	・地域医療体制確保加算
・急性期看護補助体制加算(25対1)(看護補助者5割未満)	・地域歯科診療支援病院入院加算
・看護職員夜間配置加算(12対1配置加算1)	・特定集中治療室管理料2
・看護補助加算2	・総合周産期特定集中治療室管理料
・療養環境加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・重症者等療養環境特別加算	・小児入院医療管理料3
・無菌治療室管理加算1	
・無菌治療室管理加算2	
・緩和ケア診療加算	
・精神科身体合併症管理加算	
・精神科リエゾンチーム加算	
・栄養サポートチーム加算	
・医療安全対策加算1	
・感染防止対策加算1	
・患者サポート体制充実加算	
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	
・ハイリスク妊娠管理加算	
・ハイリスク分娩管理加算	
・呼吸ケアチーム加算	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科疾患管理料の注11に掲げる総合医療管理加算及び歯科治療時医療管理料	・医療機器安全管理料1
・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算	・医療機器安全管理料2
・糖尿病合併症管理料	・医療機器安全管理料(歯科)
・がん性疼痛緩和指導管理料	・精神科退院時共同指導料1及び2
・がん患者指導管理料イ	・在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料の注2
・がん患者指導管理料ロ	・在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
・がん患者指導管理料ハ	・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料ニ	・遺伝学的検査
・外来緩和ケア管理料	・精密触覚機能検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・骨髓微小残存病変量測定
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・BRCA1/2遺伝子検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・がんゲノムプロファイリング検査
・小児運動器疾患指導管理料	・先天性代謝異常症検査
・乳腺炎重症化予防ケア・指導料	・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
・婦人科特定疾患治療管理料	・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)
・腎代替療法指導管理料	・検体検査管理加算(IV)
・院内トリアージ実施料	・国際標準検査管理加算
・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1	・遺伝カウンセリング加算
・外来放射線照射診療料	・遺伝性腫瘍カウンセリング加算
・ニコチン依存症管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん治療連携計画策定料	・胎児心エコー法
・外来排尿自立指導料	・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
・肝炎インターフェロン治療計画料	・ヘッドアップティルト試験
・ハイリスク妊産婦連携指導料2	・長期継続頭蓋内脳波検査
・薬剤管理指導料	・神経学的検査
・検査・画像情報提供加算及び電子的診療情報評価料	・補聴器適合検査

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ロービジョン検査判断料	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1
・コンタクトレンズ検査料1	・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1
・小児食物アレルギー負荷検査	・レーザー機器加算
・内服・点滴誘発試験	・人工腎臓
・経気管支凍結生検法	・導入期加算2及び腎代替療法実績加算
・画像診断管理加算3	・透析液水質確保加算及び慢性維持透析濾過加算
・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	・下肢末梢動脈疾患指導管理加算
・ポジトロン断層・磁気共鳴コンピューター断層複合撮影	・手術用顕微鏡加算
・CT撮影及びMRI撮影	・歯科技工加算1及び2
・冠動脈CT撮影加算	・センチネルリンパ節加算
・心臓MRI撮影加算	・四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に掲げる処理骨再建加算
・乳房MRI撮影加算	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・小児鎮静下MRI撮影加算	・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)
・頭部MRI撮影加算	・後縦靱帯骨化症手術(前方進入によるもの)
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・椎間板内酵素注入療法
・外来化学療法加算1	・腫瘍脊椎骨全摘術
・無菌製剤処理料	・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術
・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(便失禁)
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・仙骨神経刺激装置植込術及び仙骨神経刺激装置交換術(過活動膀胱)
・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)	・羊膜移植術
・がん患者リハビリテーション料	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・歯科口腔リハビリテーション料2	・緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・網膜再建術
・医療保護入院等診療料	・人工中耳植込術
・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術 V 型(拡大副鼻腔手術)	・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
・鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む。)	・体外衝撃波胆石破碎術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・腹腔鏡下肝切除術
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術、内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉)、内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・体外衝撃波脾石破碎術
・内視鏡下甲状腺悪性腫瘍手術	・腹腔鏡下脾腫瘍摘出術
・乳腺腫瘍画像ガイド下吸引術(一連につき)(MRIによるもの)	・腹腔鏡下脾体尾部腫瘍切除術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・腹腔鏡下直腸切除・切断術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下腎盂形成手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、等	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・同種死体腎移植術
・不整脈手術 左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの)	・生体腎移植術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・膀胱水圧拡張術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極抜去術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合)	・腹腔鏡下仙骨隆固定術
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・腹腔鏡下小切開骨盤内リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜リンパ節群郭清術、腹腔鏡下小切開後腹膜腫瘍摘出術、等	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)	・胎児輸血術
・バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術	・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1	
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	
・輸血管理料Ⅰ	
・貯血式自己血輸血管理体制加算	
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	
・歯根端切除手術の注3	
・麻酔管理料(Ⅰ)	
・麻酔管理料(Ⅱ)	
・放射線治療専任加算	
・外来放射線治療加算	
・高エネルギー放射線治療	
・1回線量増加加算	
・強度変調放射線治療(IMRT)	
・画像誘導放射線治療(IGRT)	
・定位放射線治療	
・保険医療機関間の連携による病理診断	
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による術中迅速病理組織標本作製	
・保険医療機関間の連携におけるデジタル病理画像による迅速細胞診	
・病理診断管理加算1	
・悪性腫瘍病理組織標本加算	
・クラウン・ブリッジ維持管理料	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・前眼部三次元画像解析	・
・(他の保険医療機関に対して検体の採取以外の業務を委託して実施する保険医療機関)急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	・
	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床検査部門 : 週 4 回 病理診断部門 : 月 3 回
剖 検 の 状 況	剖検症例数 23 例 / 剖検率 8.55 %

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
抗がん薬耐性分子病態の系統的薬理解析に基づく急性白血病の新救援治療戦略の確立	山内 高弘	内科学(1)	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Survivinを標的とした骨髄腫幹細胞に対する新規治療戦略の開発	大藏 美幸	内科学(1)	1,400,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
CUX1、miR-145の両ハプロ不全によるクローン性進化獲得機序の解明と制御	細野 奈穂子	血液・腫瘍内科	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
細胞内分子薬理に基づく新規尿酸生成抑制薬とプリンアナログの至適併用の確立	森田 美穂子	血液・腫瘍内科	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
がん化学療法時の高尿酸血症に関する新提案-細胞死メカニズムに基づく核酸放出量測定	大岩 加奈	血液・腫瘍内科	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
がん進化による治療耐性を引き起こす肝がん幹細胞様クローンの同定	中本 安成	内科学(2)	5,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
バイOMETALが誘導するタウオリゴマー形成促進機構の解明	濱野 忠則	内科学(2)	1,700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝臓がんにおける循環腫瘍細胞検出系の確立	大藤 和也	内科学(2)	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝細胞がん微小環境におけるエイコサノイド関連腫瘍進展機構の解明と新規治療法の研究	野阪 拓人	内科学(2)	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
胃発癌におけるオートファジーの機能解析と予防への応用	大谷 昌弘	消化器内科	700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
アンジオテンシンIV受容体の新規高感度測定系による分子遺伝学的ならびに臨床的評価	此下 忠志	内科学(3)	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
PD-1抗体による腫瘍応答の統合型PET/MRを用いた多角的機能画像による検討	梅田 幸寛	内科学(3)	1,500,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪滴による心筋Gap junctionリモデリング機序の解明	鈴木 仁弥	内分泌・代謝内科	1,400,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 13 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
IgG4関連肺疾患における自然リンパ球の役割とPD-1, PD-L1の関与	早稲田 優子	呼吸器内科	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
レドックス破綻からアプローチする新たな急性腎障害の発症修復メカニズムの解明	糟野 健司	腎臓病態内科学	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
腸内細菌叢が産生する短鎖脂肪酸の腎保護メカニズムの解明と新たなCKD治療法の確立	三上 大輔	腎臓内科	1,500,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
新規腎病理概念IgM形質細胞尿管間質性腎炎の疾患概念の確立と病態機序の解明	高橋 直生	腎臓内科	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
急性腎障害における短鎖脂肪酸受容体GPR43を介する腎保護作用の解明	横井 靖二	腎臓内科	1,800,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ケトン体であるβヒドロキシ酪酸を利用した慢性腎臓病の新規治療の開発	小林 麻美子	腎臓内科	1,900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
腸内細菌由来物質である短鎖脂肪酸/GPR41を用いた新規肝細胞癌治療戦略の開発	西川 雄大	腎臓内科	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
心房細動アブレーション後の抗Xa阻害薬投与の意義に関する研究	茅田 浩	循環器内科学	1,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
前立腺癌のホルモン療法による致死性不整脈の出現に関する予測因子の解明	長谷川 奏恵	循環器内科学	2,500,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
交感神経リモデリング現象への介入による心不全治療戦略の構築ー脳心連関の視点からー	野寺 穰	循環器内科	1,600,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
超高密度マッピングによる術後心房頻拍の機序解明と治療への応用	宮崎 晋介	不整脈・心不全 先端医療講座	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸癌における抗PROK1モノクローナル抗体による新規治療への検討	五井 孝憲	外科学(1)	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
大腸癌におけるProkineticin2因子の臨床応用に向けた検討	呉林 秀崇	消化器外科	1,700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 13 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
血小板由来内皮細胞成長因子の抗動脈硬化作用を用いた小口径人工血管開存性向上の研究	高森 督	外科学(2)	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
膀胱からの水再吸収、アクアポリン分子は夜間多尿の解決策と成り得るか	横山 修	泌尿器科学	2,800,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
腎癌におけるmicroRNA-204によるオートファジー制御の治療効果	伊藤 秀明	泌尿器科学	700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
生活習慣病に伴う難治性LUTSの克服:慢性炎症と組織モデリングに着目して	関 雅也	泌尿器科学	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
microの解剖学的位置に注目した前立腺肥大症の炎症の病態の研究	稲村 聡	泌尿器科	1,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
夜間多尿の新戦略:膀胱における知覚C線維を介した尿吸収を目指して	大江 秀樹	泌尿器科	1,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
上皮間葉移行阻害薬は全身性強皮症の新規治療薬となりうるか	長谷川 稔	皮膚科学	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
マウスを用いたアトピー性皮膚炎や魚鱗癬の胎児治療の確立	知野 剛直	皮膚科学	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
硬化性萎縮性苔癬の細胞外基質を標的とする免疫異常の病態解明と分子標的治療への応用	宇都宮 夏子	皮膚科	800,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
炎症性皮膚疾患のバリア機能異常を反映する新規バイオマーカーの探求と臨床応用の検討	宇都宮 慧	皮膚科	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
術後遷延性疼痛における脳内マクロファージの役割の解明	中井 國博	形成外科	800,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
成長期における頭蓋顎顔面骨に及ぼすレチノイン酸の役割の解析	峯岸 芳樹	形成外科	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒト肉腫幹細胞とオルガノイドモデルを用いた肉腫進展・転移メカニズムの解明	松峯 昭彦	整形外科	4,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 13 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
後縦靱帯骨化症における内軟骨性骨化に関与する因子とメカニカルストレスの影響の検討	杉田 大輔	整形外科学	1,400,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
CD271陽性骨髄幹細胞の軟骨再生能および抗炎症作用の基礎的研究	宮崎 剛	整形外科	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
手部・足部の変形疾患に対する3次元積層カスタムインプラントに関する基礎的研究	大木 央	整形外科	100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ヒト脊柱靱帯骨化組織および遺伝性骨軟骨異常マウスを用いた疾患関連遺伝子発現解析	渡邊 修司	整形外科	1,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
変形性膝関節症に対するPLA cellsによる軟骨保護・抗炎症効果の基礎的研究	坂本 拓己	整形外科	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
緑内障視神経症における軸索流変化を捉える画期的な眼底イメージング	稲谷 大	眼科学	1,600,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
緑内障視神経症の病態を断ち切る画期的な手術手技の確立	稲谷 大	眼科学	3,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
糖尿病網膜症におけるエピジェネティックな制御機構の解明による新しい病態概念の確立	高村 佳弘	眼科学	630,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
網膜神経節細胞バソプレシン神経の概日リズムと精神機能への生理的役割の解析	辻 隆宏	眼科	1,400,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
線維柱帯切除後になぜ白内障は進行するのか	有村 尚悟	眼科	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
機械学習を用いたスギ舌下免疫療法に最適な鼻腔細菌叢モデル作成	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
アレルギー性鼻炎における細菌叢の解析と短鎖脂肪酸の影響に関する検討	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	2,400,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
CD82を標的とした頭頸部癌の後発遠隔転移の克服	成田 憲彦	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 13 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
鼻粘膜上皮細胞、マスト細胞におけるdectin-1受容体の存在と機能解析	木村 幸弘	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ORMDL3がアレルギー性鼻炎に与える影響についての研究	扇 和弘	耳鼻咽喉科・頭頸部外科学	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
モデルマウスを用いた花粉-食物アレルギーの病態解明	加藤 幸宣	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,500,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎における短鎖脂肪酸の機能解析	意元 義政	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	800,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
早期舌扁平上皮癌における後発頸部リンパ節転移予測の新規マーカーの解析	伊藤 有未	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
鼻腔NOに着目した好酸球性副鼻腔炎の病態解明と新規治療への応用	吉田 加奈子	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,800,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
カテキンによる血管内皮増殖因子受容体の分解機構解明と口腔癌分子標的薬治療への応用	吉村 仁志	歯科口腔外科学	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
漢方薬“ヨクイニン”とその有用成分を応用した副作用の少ない口腔癌治療法の確立	吉田 寿人	歯科口腔外科	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
食物アレルギーに対する経皮免疫療法とアジュバントの開発	大嶋 勇成	小児科学	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ナノ粒子を用いた分化誘導療法による新たな神経芽腫治療法の開発	鈴木 孝二	小児科学	800,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ナノ粒子を用いた薬物輸送システムの開発; 神経芽腫がん細胞の分化誘導療法	吉川 利英	小児科学	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
キレる子どもの神経基盤の解明と有効な包括的対支援システムの構築	川谷 正男	小児科	1,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
発達性ディスレクシアの神経基盤の解明と早期発見・介入の試み	巨田 元礼	小児科	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 13 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
胎児・新生児期の生体リズム評価による自閉スペクトラム症の病態解明	小坂 拓也	小児科	700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪酸酸化能検査法を応用した長鎖脂肪酸酸化異常症の重症度・治療有効性判定法の確立	杉原 啓一	小児科	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
Radiogenomics法を用いた新規子宮肉腫治療バイオマーカーと治療法の開発	吉田 好雄	産科婦人科学	3,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
卵巣癌における腹水中の微量銅元素増加の意義解明と新規銅制御治療法の開発	大沼 利通	産科婦人科学	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
加齢による精子・卵子の妊孕能低下とミトコンドリア品質管理システムの関連	折坂 誠	産科婦人科	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
抗癌剤抵抗性卵巣癌のカルシウム伝達とミトコンドリア動態に着目した治療戦略の開発	津吉 秀昭	産科婦人科	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脱落膜分泌因子による絨毛浸潤制御機構～ART妊娠に伴う癒着胎盤の予測へ向けて～	川村 裕士	産科婦人科	1,600,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
若年子宮体癌の妊孕性温存療法に対する非侵襲的治療効果判定法および抵抗性機序の解明	山田 しず佳	産科婦人科	500,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
間葉系幹細胞からの前顆粒膜細胞の誘導－体外培養系での卵子獲得を目指して－	宮崎 有美子	産科婦人科	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
視線追跡装置を用いたディスレクシアの診断補助・合理的配慮支援法の個別評価の確立	三崎 真寛	精神医学	600,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
情動変化を呈したモデル動物における酸化ストレスの全脳的評価	水野 智之	神経科精神科	700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
膠芽腫の神経好性浸潤機構を高分子ナノファイバーを用い解明し制御する医工学的研究	北井 隆平	脳脊髄神経外科学	1,500,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳表へモジゲリン沈着症ラットモデルの作成	有島 英孝	脳脊髄神経外科	600,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 13 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
CBB法を用いたイオンチャネルに対する麻酔薬の作用機序の解明	松木 悠佳	麻酔・蘇生学	700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
動脈磁気標識法(ASL)による新たなMRI脳機能画像の開発と臨床応用	木村 浩彦	放射線医学	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
産科領域における非造影灌流MRI(ASL法)の開発と臨床応用の確立	小坂 信之	放射線医学	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
慢性副鼻腔炎の白血球浸潤の解明と炎症との関連性の解析	堤内 俊喜	集中治療部	1,800,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
CMLにおけるシャペロン機能を標的としたTKI耐性克服のための新治療戦略	松田 安史	輸血部	1,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪由来間葉系間質細胞を用いた重度脊髄損傷治療効果の検証および治療効果機序の検討	高橋 藍	リハビリテーション部	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
難治性疼痛に対する中枢-末梢同時電気刺激の有効性のトランスレーショナルリサーチ	松尾 英明	リハビリテーション部	500,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
肝がん微小環境での免疫編集に関わるHLA-classII発現変化と制御機構の解析	平松 活志	光学医療診療部	1,400,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脂肪酸酸化異常症代謝プロファイル解析による高精度診断法の確立	湯浅 光織	周産期母子医療センター	1,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
愛着障害の新たな客観的診断・支援法の開発—少子化社会を克服するための戦略—	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	9,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
ペアレントトレーニング効果判定のためのMRI脳計測による客観的手法の開発	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	2,600,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
シナプス膜移行異常モデルを用いた新規自閉症治療標的の検討	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	5,000,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業

小計 12 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
フリーラジカルに着目した自閉症エネルギー代謝異常の研究	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	2,400,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
子どものための診断アセスメントとサービス改善プロジェクト	鈴木 太	子どものこころの発達研究センター	700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
子どもの強迫症臨床アセスメント開発と普及プロジェクト	牧野 拓也	子どものこころの発達研究センター	800,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
愛着関連障害と発達障害の判別システム: 中間表現型を用いた研究	滝口 慎一郎	子どものこころ診療部	900,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
安静時機能的MRIを用いたADHDにおける神経ネットワークと遺伝子の関連解析	水野 賀史	子どものこころ診療部	700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
固形腫瘍患者における血流感染症の細菌学的変遷と適切な抗菌薬治療に関する調査研究	塚本 仁	薬剤部	400,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
腸肝循環の脱抱合メカニズムにおける薬物相互作用の分子機構解明	古俵 孝明	薬剤部	700,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
好酸球性副鼻腔炎の鼻ポリープにおける脂肪酸代謝解析	坂下 雅文	医学研究支援センター	1,200,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脊髄障害性疼痛におけるニューロン-グリア関連解明とニューロイメージング評価の確立	中嶋 秀明	地域高度医療推進講座	1,100,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
脳内分子動態解析による認知症発症機序の解明と早期診断への応用	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	3,500,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
全身の造血活性を可視化する統合型FLT-PET/MRIによる骨髄不全症の病態解明	辻川 哲也	高エネルギー医学研究センター	1,300,000	補 委	日本学術振興会 科学研究費助成事業
5番染色体高頻度決死部位遺伝子G3BP1の機能喪失による酸化ストレスを介したTP53変異獲得機構の解明	細野 奈穂子	血液・腫瘍内科	2,000,000	補 委	公益財団法人 内藤記念科学 振興財団
獲得免疫反応の賦活化により核内HBV cccDNAを排除する手法の開発	中本 安成	内科学(2)	8,910,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

小計 13 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
獲得・自然免疫関連分子とHCV病態の検討	中本 安成	内科学(2)	2,000,000	補 委	国立大学法人 山梨大学
非代償性C型肝炎患者における粘膜関連腸内細菌叢と門脈圧亢進症の検討	中本 安成	内科学(2)	1,170,000	補 委	国立大学法人 大阪大学
高尿酸血症を合併した慢性腎臓病患者に対する積極的尿酸降下療法の有効性を検証するランダム化比較試験 Trial of intensive UA-lowering therapy in CKD patients(TARGET-UA試験)	岩野 正之	腎臓病態内科学	773,000	補 委	公立大学法人 奈良県立医科大学
新たに提唱されたIgM陽性形質細胞を伴った腎炎の診断基準の作成とメカニズムの解明	高橋 直生	腎臓内科	1,000,000	補 委	公益財団法人 大和証券ヘルス財団
カテーテルアブレーション治療周術期および術後における経口Xa阻害薬リバーロキサバンの有効性及び安全性評価のための後ろ向き観察研究	埴田 浩	循環器内科学	43,200	補 委	一般財団法人 黎明郷
実地臨床におけるエベロリムス溶出性ステントとシロリムス溶出性ステントの有効性及び安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験:長期追跡試験【<RESET>Randomized Evaluation of Sirolimus-eluting versus Everolimus-eluting Stent Trial:Extended Follow-up Study】	宇隨 弘泰	循環器内科学	270,000	補 委	一般財団法人 生産開発科学研究所
国際交流助成事業	長谷川 奏恵	循環器内科学	300,000	補 委	公益財団法人 福田記念医療技術 振興財団
前立腺癌のホルモン療法による致死性不整脈の出現に関する予測因子の解明	長谷川 奏恵	循環器内科学	1,000,000	補 委	公益財団法人 赤枝医学研究財団
エベロリムス溶出性コバルトクロムステント留置後の抗血小板剤2剤併用療法(DAPT)期間を1ヶ月に短縮することの安全性を評価する研究【STOPDAPT2】	池田 裕之	循環器内科	159,840	補 委	一般財団法人 生産開発科学研究所
StageⅢ結腸癌治癒切除例に対する術後補助化学療法としてのmFOLFOX6療法またはXELOX療法における5-FU系抗がん剤およびオキサリプラチンの至適投与期間に関するランダム化第Ⅲ相比較臨床試験	五井 孝憲	外科学(1)	21,600	補 委	公益財団法人 がん集学的治療 研究財団

小計 10 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
再発危険因子を有するStage II 大腸癌に対するUFT/LV療法の臨床的有用性に関する研究(JFMC46-1201)	五井 孝憲	外科学(1)	21,600	補 委	公益財団法人 がん集学的治療 研究財団
前立腺がん患者の診断時背景因子と初期治療および治療経過に関する実態調査研究	伊藤 秀明	泌尿器科学	32,000	補 委	特定非営利活動法人 J-Cap研究会
全身性強皮症に対する新規低分子化合物の有効性に関する研究	長谷川 稔	皮膚科学	130,000	補 委	国立大学法人 熊本大学
デルモカイン(dermokine;DMKN)の乾癬における病態形成の解明と疾患特異的バイオマーカーとしての臨床応用に関する研究	宇都宮 慧	皮膚科	1,000,000	補 委	日本乾癬学会
変形性膝関節症治療のための高強度小型立体固定プレート及び固定方式の開発	松峯 昭彦	整形外科	2,176,923	補 委	公益財団法人 石川県産業創出 支援機構
持続可能なビッグデータ運用体制の構築と眼科AIシステムの社会実装	稲谷 大	眼科学	78,000	補 委	国立大学法人 筑波大学
緑内障に関するデータ収集・解析案の作成	稲谷 大	眼科学	195,000	補 委	国立大学法人 筑波大学
難治性ダニアレルギー性鼻炎、難治性スギ花粉症の定義付けとガイドラインへの反映	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	13,000,000	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
AERDの好酸球性鼻茸におけるプロテオーム解析と特異的蛋白の機能研究	藤枝 重治	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	1,300,000	補 委	独立行政法人 国立病院機構 相模原病院
タンデムマス法による新生児マススクリーニング対象疾患の拡大に関する調査研究	重松 陽介	小児科学	298,506	補 委	国立研究開発法人 国立成育医療 研究センター
アミノ酸・アシルカルニチンプロファイルを用いた未熟児のアミノ酸・脂質代謝の検討	五十嵐 愛子	小児科	500,000	補 委	公益財団法人 森永奉仕会
AIを用いた自閉症患者の高次視覚野の身体の視覚処理に関わる脳活動の抽出	小坂 浩隆	精神医学	500,000	補 委	公益財団法人 明治安田こころの 健康財団
視線計測装置及び視線計測装置用診断プログラム(GF01)による自閉スペクトラム(ASD)の診断能に関する多施設共同試験	小坂 浩隆	精神医学	14,249,820	補 委	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構

小計 13 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
ロボット麻酔システムの開発	重見 研司	麻酔・蘇生学	42,097,380	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
ネットワーク自動生業技術を用いたクラウド救急医療連携システムの研究開発	木村 哲也	救急医学	9,361,203	補 (委)	総務省北陸総合通信局
「緊急外来における非ST上昇型急性心筋梗塞の最適な診断戦略の検討」に係る患者登録等データ収集業務	山田 直樹	救急部	25,990	補 (委)	国立大学法人 京都大学
深層学習を用いた胎児と母親の心拍変動のパワースペクトル解析パターン対の動的識別法	玉村 千代	周産期母子医療センター	1,535,925	補 (委)	総務省北陸総合通信局
母親と子どもの「協力する行動」の機能的役割に関する検討-多様な親子関係性が包摂される共生社会を目指して-	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	700,000	補 (委)	公益財団法人 前川財団
養育者支援によって子どもの虐待を低減するシステム構築【RISTEX】	友田 明美	子どものこころの発達研究センター	15,600,000	補 (委)	国立研究開発法人 科学技術振興機構
シナプス膜移行異常モデルを用いた新規自閉症治療標的の検討	松崎 秀夫	子どものこころの発達研究センター	1,000,000	補 (委)	公益財団法人 先進医薬研究振興財団
国内外における医薬品等情報の提供実態に関する調査並びに情報システムのコンテンツの検討・運用サイトの改善を踏まえた提言	後藤 伸之	薬剤部	400,010	補 (委)	国立大学法人 熊本大学
国内発症リケッチア症の救命のための治療法開発	岩崎 博道	感染制御部	1,300,000	補 (委)	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
感染予防管理にIoT/BD/AIを活用し、WHOが推奨する手指衛生を遵守する研究開発	岩崎 博道	感染制御部	10,327,777	補 (委)	総務省北陸総合通信局
小児Ph染色体陽性白血病に対するチロシンキナーゼ阻害薬の適正使用に関する研究開発	谷澤 昭彦	がん専門医育成推進講座	260,000	補 (委)	学校法人 慶応義塾
小児骨髄系腫瘍に対する標準的治療法の確立	谷澤 昭彦	がん専門医育成推進講座	260,000	補 (委)	国立大学法人 京都大学
後縦靭帯骨化症の病態解明・治療法開発に関する研究	中嶋 秀明	地域高度医療推進講座	1,898,000	補 (委)	学校法人 慶応義塾

小計 13 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
①MELAS/MELAに対するPA療法の長期投与試験総括報告書作成および後観察研究の実施 ②新規バイオマーカーGDF15の体外診断薬としての開発研究 ③ミトコンドリア病の診断・治療アルゴリズムの策定	井川 正道	地域高度医療推進講座	130,000	補 (委)	学校法人 久留米大学
AMPA受容体標識PETプローブを用いた精神神経疾患横断的研究 (AMPA受容体標識PETプローブ製造体制の整備および発達障害等の精神神経疾患を対象とした臨床研究の実施)	岡沢 秀彦	高エネルギー医学研究センター	3,490,370	補 (委)	公立大学法人 横浜市立大学
「福井県地域包括ケアシステム」のためのクラウド型在宅療養情報共有システムとAIによる事象分析に関する研究開発	山村 修	地域医療推進講座	10,539,628	補 (委)	総務省北陸総合通信局

小計 3 件
計 142 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なもの
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Yamauchi T	内科学(1)	Novel therapeutic strategy based on genetic and epigenetic abnormalities for myeloid neoplasms	Int J Clin Oncol. 2019 Aug; 24(8):883-884	Review
2	Hosono N	血液・腫瘍内科	Genetic abnormalities and pathophysiology of MDS	Int J Clin Oncol. 2019 Aug; 24(8):885-892	Review
3	Nosaka T, Naito T, Matsuda H,他	内科学(2)	Molecular signature of hepatitis B virus regulation by interferon-gamma in primary human hepatocytes	Hepatol Res. 2020 Mar; 50(3):292-302	Original Article
4	Hamano T, Mutoh T, Naiki H,他	内科学(2)	Subventricular glial nodules in neurofibromatosis 1 with craniofacial dysmorphism and occipital meningoencephalocele	eNeurologicalSci. 2019 Nov; 17:100213	Case report
5	Enomoto S, Shigemi H, Kitazai Y,他	脳神経内科	Cladophialophora bantiana infection mimicking neuromyelitis optica	J Neurol Sci. 2019 Apr; 399:169-171	Original Article
6	Akazawa Y, Hosono A, Yoshikawa T,他	消化器内科	Efficacy of the NCCV Cocktail-1 vaccine for refractory pediatric solid tumors: A phase I clinical trial	Cancer Sci. 2019 Dec; 110(12):3650-3662	Original Article
7	Akazawa Y, Nobuoka D, Takahashi M,他	消化器内科	Higher human lymphocyte antigen class I expression in early-stage cancer cells leads to high sensitivity for cytotoxic T lymphocytes	Cancer Sci. 2019 Jun; 110(6):1842-1852	Original Article
8	Akazawa Y, Mizuno S, Fujinami N,他	消化器内科	Usefulness of serum microRNA as a predictive marker of recurrence and prognosis in biliary tract cancer after radical surgery	Sci Rep. 2019 Apr; 9(1):5925	Original Article
9	Tanaka T, Hiramatsu K, Saito Y,他	消化器内科	The Usefulness of Video Capsule Endoscopy in Evaluating Gastrointestinal Manifestations of Immunoglobulin A Vasculitis	Intern Med. 2019 Jul; 58(14):1979-1985	Original Article
10	Umeda Y, Tsujikawa T, Anzai M,他	内科学(3)	The Vertebral 3'-Deoxy-3'-18F-Fluorothymidine Uptake Predicts the Hematological Toxicity after Systemic Chemotherapy in Patients with Lung Cancer	Eur Radiol. 2019 Jul; 29(7):3908-3917	Original Article
11	Sato S, Suzuki J, Hirose M,他	内分泌・代謝内科	Cardiac overexpression of perilipin 2 induces atrial steatosis, connexin 43 remodeling, and atrial fibrillation in aged mice	Am J Physiol Endocrinol Metab. 2019 Dec (オンライン)	Original Article
12	Sonoda T, Waseda Y, Iino S,他	呼吸器内科	The case of non-small cell lung cancer followed by lip lymphoproliferative disease after immunotherapy	Annals of Oncology. 2019 Oct; 30(Suppl6):VI142	Case report

小計 12 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
13	Mikami D, Kobayashi M, Uwada J,他	腎臓内科	Beta-Hydroxybutyrate enhances the cytotoxic effect of cisplatin via the inhibition of HDAC/survivin axis in human hepatocellular carcinoma cells	J Pharmacol Sci. 2020 Jan; 142(1):1-8	Original Article
14	Mikami D, Kobayashi M, Uwada J,他	腎臓内科	Beta-Hydroxybutyrate, a ketone body, reduces the cytotoxic effect of cisplatin via activation of HDAC5 in human renal cortical epithelial cells	Life Sci. 2019 Apr; 222:125-132	Original Article
15	Hasegawa K, Miyazaki S, Kaseno K,他	循環器内科学	Abrupt loss of atrial capture during linear ablation to eliminate atrial tachycardias post cardiac surgery	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Aug; 30(8):1388-1390	Case report
16	Hasegawa K, Miyazaki S, Kaseno K,他	循環器内科学	Pressure-guided Second-generation Cryoballoon Pulmonary Vein Isolation: Prospective Comparison of the Procedural and Clinical Outcomes with the Conventional Strategy	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Oct; 30(10):1841-1847	Original Article
17	Hasegawa K, Miyazaki S, Ishikawa E,他	循環器内科学	Repetitive shock therapy of subcutaneous implantable cardioverter defibrillators in a patient with idiopathic ventricular fibrillation: What is the mechanism?	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Oct; 30(10):2121-2124	Original Article
18	Sato Y, Uzui H, Mukai M,他	循環器内科	Efficacy and Safety of Tolvaptan in Patients More Than 90 Years Old With Acute Heart Failure	J Cardiovasc Pharmacol Ther. 2020 Jan; 25(1):47-56	Original Article
19	Miyahara K, Miyazaki S, Tada H	循環器内科	Silent takotsubo cardiomyopathy after cryoballoon ablation	Europace. 2019 Nov; 21(11):1662	Case report
20	Miyazaki S, Kajiyama T, Watanabe T,他	不整脈・心不全 先端医療講座	Can the Durability of Pulmonary Vein Isolation be Predicted by the Time-to-Isolation in Second-generation Cryoballoon Ablation? Insight from the Results of Repeat Procedures	Circ Arrhythm Electrophysiol. 2020 Jan (オンライン)	Original Article
21	Miyazaki S, Nakamura H, Kajiyama T,他	不整脈・心不全 先端医療講座	Early Tissue Reaction After Second-Generation Cryoballoon Ablation Evaluated with Intracardiac Echocardiography	Int Heart J. 2019 May; 60(3):618-623	Original Article
22	Miyazaki S, Aoyama D, Mukai M,他	不整脈・心不全 先端医療講座	Epicardial scar dechanneling of the area adjacent to the left phrenic nerve in a patient with ventricular tachycardia	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Jun; 30(6):971-972	Case report
23	Miyazaki S, Kajiyama T, Watanabe T,他	不整脈・心不全 先端医療講座	Predictors of durable pulmonary vein isolation after second-generation cryoballoon ablation with a single short freeze strategy - Different criteria for the best freeze of the 4 individual PVs	Int J Cardiol. 2020 Feb; 301:96-102	Original Article

小計 11 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
24	Miyazaki S, Hasegawa K, Kaseno K,他	不整脈・心不全 先端医療講座	Protected channels can be formed by a functional line of block in human atrial tachycardia	Heart Rhythm. 2019 Apr; 16(4):642-643	Case report
25	Miyazaki S, Hasegawa K, Ishikawa E,他	不整脈・心不全 先端医療講座	Scar-related atrial tachycardia within a short superior vena cava musculature sleeve	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Oct; 30(10):2119-2120	Original Article
26	Miyazaki S	不整脈・心不全 先端医療講座	Silent takotsubo cardiomyopathy after cryoballoon ablation: Author's reply	Europace. 2019 Nov; 21(11):1755	Case report
27	Miyazaki S, Yamao K, Hasegawa K,他	不整脈・心不全 先端医療講座	SVC Mapping Using an Ultra-High Resolution 3-Dimensional Mapping System in Patients With and Without AF	JACC Clin Electrophysiol. 2019 Aug; 5(8):958-967	Original Article
28	Miyazaki S, Hasegawa K, Kaseno K,他	不整脈・心不全 先端医療講座	The mechanisms of an unusual coronary sinus activation pattern in peri-mitral atrial tachycardia: Analysis with ultra-high resolution mapping	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Apr; 30(4):624-625	Case report
29	Miyazaki S, Horie T, Hachiya H,他	不整脈・心不全 先端医療講座	The mechanisms of recurrent atrial arrhythmias after second-generation cryoballoon ablation	Am Heart J. 2020 Mar; 221:29-38	Original Article
30	Miyazaki S, Hasegawa K, Ishikawa E,他	不整脈・心不全 先端医療講座	Why cannot a left atrial anterior linear lesion achieve conduction block? The importance of interatrial connections	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 Nov; 30(11):2554-2557	Original Article
31	Miyazaki S, Hasegawa K, Kaseno K,他	不整脈・心不全 先端医療講座	Coronary sinus occlusion after mitral isthmus linear ablation: Unrecognized silent complication after catheter ablation	J Cardiovasc Electrophysiol. 2019 May; 30(5):775-776	Case report
32	Aoyama D, Miyazaki S, Hasegawa K,他	不整脈・心不全 先端医療講座	Feasibility of uninterrupted direct oral anticoagulants with temporary switching to dabigatran ("dabigatran bridge") for catheter ablation of atrial fibrillation	Int Heart J. 2019 Nov; 60(6):1315-1320	Original Article
33	Aoyama D, Morishita T, Uzui H,他	不整脈・心不全 先端医療講座	Sequential organ failure assessment score on admission predicts long-term mortality in acute heart failure patients	ESC Heart Fail. 2020 Feb; 7(1):244-252	Original Article
34	Tsuchiyama K, Ito H, Seki M,他	泌尿器科学	Advanced bladder cancer with malignant psoas syndrome:A case report with a focus on physical findings and complications	Urol Case Rep. 2019 Jul; 26:100958	Case report
35	Tsuchiyama K, Aoki Y, Ito H,他	泌尿器科学	Neurogenic bladder associated with xeroderma pigmentosum type A:A case report and literature review	Urol Case Rep. 2019 Aug; 27:100996	Case report

小計 12 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
36	Ito H, Aoki Y, Oe H,他	泌尿器科学	Low and high body mass index values are associated with female nocturia	Neurourol Urodyn. 2019 Nov; 38(8):2250-2254	Original Article
37	Seki M, Zha X, Inamura S,他	泌尿器科学	Role of corticotropin-releasing factor on bladder function in rats with psychological stress	Sci Rep. 2019 Jul; 9(1):9828	Case report
38	Inamura S, Ito H, Taga M,他	泌尿器科	Low-dose Docetaxel Enhanced the Anticancer Effect of Temsirolimus by Overcoming Autophagy in Prostate Cancer Cells	Anticancer Res. 2019 Oct; 39(10):5417-5425	Original Article
39	Yamaguchi Y, Oyama N, Koizumi H,他	皮膚科	Successful treatment of recalcitrant subcorneal pustular dermatosis with oral nicotinamide	J Dermatol. 2019 Nov (オンライン)	Original Article
40	Miyanaga M, Oyama N, Sakai Y,他	皮膚科	Successful treatment of acquired reactive perforating collagenosis with topical benzoyl peroxide: A possible therapeutic action underlying structural and metabolic turnover	J Dermatol. 2020 Jan (オンライン)	Case report
41	Sakamoto T, Miyazaki T, Watanabe S,他	整形外科	Intraarticular injection of processed lipoaspirate cells has anti-inflammatory and analgesic effects but does not improve degenerative changes in murine moniodoacetate-induced osteoarthritis	BMC Musculoskelet Disord. 2019 Jul; 20(1):335	Original Article
42	Iwasaki K, Takamura Y, Arimura S,他	眼科	Prospective cohort study on refractive changes after trabeculectomy	J Ophthalmol. 2019 Aug; 2019:4731653	Original Article
43	Arimura S, Iwasaki K, Gozawa M,他	眼科	Trabeculectomy followed by phacoemulsification versus trabeculectomy alone: The Collaborative Bleb-Related Infection Incidence and Treatment Study	PLoS One. 2019 Oct (オンライン)	Original Article
44	Gozawa M, Kanamoto M, Ishida S,他	眼科	Evaluation of Intraocular Gas Using Magnetic Resonance Imaging After Pars Plana Vitrectomy With Gas Tamponade for Rhegmatogenous Retinal Detachment	Sci Rep. 2020 Jan; 10(1):1521	Original Article
45	Fujieda S, Imoto Y, Kato Y,他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	Eosinophilic chronic rhinosinusitis	Allergol Int. 2019 Oct; 68(4):403-412	Original Article
46	Ogi K, Manabe Y, Mori S,他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学	Long-Term Effects of Combined Submucous Turbinatectomy and Posterior Nasal Neurectomy in Patients with Allergic Rhinitis	SN Comprehensive Clinical Medicine. 2019 Jul; 1:540-546	Original Article

小計 11 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
47	Takabayashi T, Tanaka Y, Susuki D,他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Increased expression of L-plastin in nasal polyp of patients with nonsteroidal anti-inflammatory drug-exacerbated respiratory disease	Allergy. 2019 Jul; 74(7):1307-1316	Original Article
48	Imoto Y, Kato A, Takabayashi T, 他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Increased thrombin-activatable fibrinolysis inhibitor levels in patients with chronic rhinosinusitis with nasal polyps	J Allergy Clin Immunol. 2019 Dec; 144(6):1566-1574	Original Article
49	Yoshida K, Takabayashi T, Imoto Y,他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Reduced nasal nitric oxide levels in patients with eosinophilic chronic rhinosinusitis	Allergol Int. 2019 Apr; 68(2):225-232	Original Article
50	Kanno M, Narita N, Fujimoto Y,他	耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科	Third Epidemiological Analysis of Nasopharyngeal Carcinoma in the Central Region of Japan from 2006 to 2015	Cancers (Basel). 2019 Aug; 11(8):1180	Original Article
51	Yoshimura H, Yoshida H, Matsuda S,他	歯科口腔外科学	The therapeutic potential of epigallocatechin-3-gallate against human oral squamous cell carcinoma through inhibition of cell proliferation and induction of apoptosis: in vitro and in vivo murine xenograft study	Mol Med Rep. 2019 Aug; 20(2):1139-1148	Case report
52	Matsuda S, Yoshimura H, Sano K	歯科口腔外科	A floating inferior alveolar neurovascular bundle in a simple bone cyst: A case report	Exp Ther Med. 2019 Jun; 17(6):4677-4680	Case report
53	Matsuda S, Yoshimura H, Sano K	歯科口腔外科	Application of a real-time 3-dimensional navigation system for treatment of synovial chondromatosis of the temporomandibular joint:A case report	Medicine (Baltimore). 2019 May (オンライン)	Case report
54	Matsuda S, Yoshimura H, Yoshida H,他	歯科口腔外科	Breakage and Migration of a High-Speed Dental Hand-Piece Bur During Mandibular Third Molar Extraction: Two Case Reports	Medicine (Baltimore). 2020 Feb (オンライン)	Case report
55	Matsuda S, Yoshimura H, Yoshida H,他	歯科口腔外科	Ossifying fibroma in the mandibular angle mimicking metastatic clear cell renal cell carcinoma: A case report	Medicine (Baltimore). 2019 Aug (オンライン)	Case report
56	Matsuda S, Saito T, Yoshida H,他	歯科口腔外科	Prevalence of tongue cleaning using a toothbrush: A questionnaire survey in Fukui Prefecture, Japan	Biomed Res Int. 2019 Nov; 2019:6320261	Case report
57	Yoshida H, Yoshimura H, Matsuda S,他	歯科口腔外科	Celecoxib suppresses lipopolysaccharide-stimulated oral squamous cell carcinoma proliferation in vitro and in vivo	Oncol Lett. 2019 Dec; 18(6):5793-5800	Original Article
58	Ohta K, Yoshimura H, Matsuda S,他	歯科口腔外科	Oral liposarcoma in elderly: Case report and literature analysis	Medicine (Baltimore). 2020 Feb (オンライン)	Case report

小計 12 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
59	Ohta K, Yoshimura H	歯科口腔外科	Odontogenic cutaneous fistula of the face	CMAJ. 2019 Nov (オンライン)	Case report
60	Ohta K, Yoshimura H	歯科口腔外科	Squamous cell carcinoma of the dorsal tongue	CMAJ. 2019 Nov (オンライン)	Case report
61	Ohta K, Yoshimura H	歯科口腔外科	Leukoplakia of the tongue	Cleve Clin J Med. 2020 Mar; 87(3):133-134	Case report
62	Kosaka T, Ohta G, Kometani H,他	小児科	A case of early myoclonic encephalopathy with intractable seizures successfully treated with high-dose phenobarbital	Brain Dev. 2019 Sep; 41(8):717-720	Case report
63	Yamada K, Shigemi H, Suzuki K,他	小児科	Successful management of a Bacillus cereus catheter-related bloodstream infection outbreak in the pediatric ward of our facility	J Infect Chemother. 2019 Nov; 25(11):873-879	Original Article
64	Itoh N, Murai H, Kawasaki A,他	小児科	Eosinophilic gastroenteritis developed after remission of cow's milk allergy	Pediatr Int. 2020 Feb; 62(2):233-234	Case report
65	Yoshida Y	産科婦人科学	Current treatment of older patients with recurrent gynecologic cancer	Curr Opin Obstet Gynecol. 2019 Oct; 31(5):340-344	Review
66	Inoue D, Nishijima K, Takahashi J,他	産科婦人科	A delayed diagnosis of acute myeloid leukaemia during pregnancy using an old blood cell analyser	J Obstet Gynaecol. 2019 Nov; 39(8):1173-1174	Case report
67	Tsuyoshi H, Tsujikawa T, Yamada S,他	産科婦人科	FDG-PET/MRI with high-resolution DWI characterises the distinct phenotypes of endometrial cancer	Clin Radiol. 2020 Mar; 75(3):209-215	Original Article
68	Tsuyoshi H, Yashiro K, Yamada S,他	産科婦人科	Role of diagnostic laparoscopy in patients with large cell neuroendocrine carcinoma of the ovary with cancerous peritonitis: case report and review of the literature	J Ovarian Res. 2019 Oct; 12(1):95	Case report
69	Miyazaki Y, Orisaka M, Nishino C,他	産科婦人科	Herlyn-Werner-Wunderlich Syndrome With Cervical Atresia Complicated by Ovarian Endometrioma: A Case Report	J Obstet Gynaecol Res. 2020 Feb; 46(2):347-351	Case report
70	Yamada S, Tsuyoshi H, Tsujikawa T,他	産科婦人科	Predictive Value of 16 alpha-[18F]-Fluoro-17 beta-Estradiol PET as a Biomarker of Progestin Therapy Resistance in Patients With Atypical Endometrial Hyperplasia and Low-Grade Endometrial Cancer	Clin Nucl Med. 2019 Jul; 44(7):574-575	Original Article

小計 12 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
71	Kawamura H, Yashiro K, Matsuo S,他	産科婦人科	Visualization of intrahepatic portosystemic shunt and intra-abdominal umbilical vein varix using fetal ultrasonography with HDlive flow imaging	J Med Ultrason (2001). 2020 Jan; 47(1):143-145	Case report
72	Kosaka H, Fujioka T, Jung M	精神医学	Symptoms in individuals with adult-onset ADHD are masked during childhood	Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci. 2019 Sep; 269(6):753-755	Original Article
73	Kitai R, Yamauchi T, Arai Y,他	脳脊髄神経外科学	Deflation of a Rathke cleft cyst triggered rupture of a superior hypophyseal artery aneurysm: a case report	Br J Neurosurg. 2019 Apr; 33(2):219-221	Case report
74	Matsuki Y, Nagata O, Ogino Y,他	麻酔・蘇生学	Comparison of propofol administration regulation by pharmacodynamic indicators TEC (estimated target-effect-site concentration) versus BIS value	ANAESTH, PAIN & INTENSIVE CARE. 2019 Dec; 23(4):387-391	Original Article
75	Hida Y, Uemura K, Sugimoto H,他	検査部	Evaluation of performance of the GENECUBE assay for rapid molecular identification of Staphylococcus aureus and methicillin resistance in positive blood culture medium	PLoS One. 2019 Jul (オンライン)	Original Article
76	Kita A, Onoguchi M, Shibutani T,他	放射線部	Standardization of the specific binding ratio in [123I]FP-CIT SPECT: study by striatum phantom	Nucl Med Commun. 2019 May; 40(5):484-490	Original Article
77	Tsutsumiuchi T, Hoshino H, Fujieda S,他	集中治療部	Induction of peripheral lymph node addressin in human nasal mucosa with eosinophilic chronic rhinosinusitis	Pathology. 2019 Apr; 51(3):268-273	Original Article
78	Mizuno Y, Kagitani- Shimono K, Jung M,他	子どものこころ診療部	Structural Brain Abnormalities in Children and Adolescents with Comorbid Autism Spectrum Disorder and Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder	Transl Psychiatry. 2019 Dec; 9(1):332	Original Article
79	Akino H, Ito H, Nagase K,他	医療安全管理部	Alpha1-Blocker inhibits non-voiding contractions and decreases the level of intravesical prostaglandin E2 in rats with partial bladder outlet obstruction	Int J Urol. 2019 Sep; 26(9):924-930	Original Article
80	Lee S, Negoro E, Oki H,他	がん診療推進センター	Simultaneous Presentation of Lymphomatoid Granulomatosis and Multiple myeloma in an Immunodeficient Patient with Rheumatoid Arthritis	Intern Med. 2019 Oct; 58(19):2845-2849	Original Article
81	Lee S, Fujita K, Negoro E,他	がん診療推進センター	The impact of diagnostic wait time on the survival of patients with diffuse large B-cell lymphoma: effect modification by the International Prognostic Index	Br J Haematol. 2019 Oct; 187(2):195-205	Original Article

小計 11 件

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
82	Lee S, Tsukasaki H, Yamauchi T	がん診療推進センター	Visceral disseminated varicella zoster virus infection with brachial plexus neuritis detected by fluorodeoxyglucose positron emission tomography and computed tomography	J Infect Chemother. 2019 Jul; 25(7):556-558	Case report
83	Lee S, Negoro E, Morishita T,他	がん診療推進センター	The Effect of Diagnostic Wait Time on the Survival of Patients with Diffuse Large B-Cell Lymphoma Differs Depending on International Prognostic Index	Blood. 2019 Nov; 134Issue Suppl_1:2902	Original Article
84	Ikawa M, Povalko N, Koga Y	地域高度医療推進講座	Arginine therapy in mitochondrial myopathy, encephalopathy, lactic acidosis, and stroke-like episodes	Curr Opin Clin Nutr Metab Care. 2020 Jan; 23(1):17-22	Review
85	Nakajima H, Watanabe S, Honjoh K,他	地域高度医療推進講座	Long-term outcome of anterior cervical decompression with fusion for cervical ossification of posterior longitudinal ligament including postsurgical remnant ossified spinal lesion	Spine (Phila Pa 1976). 2019 Dec (オンライン)	Original Article
86	Nakajima H, Uchida K, Taguchi T,他	地域高度医療推進講座	Multicenter cross-sectional study of the clinical features and types of treatment of spinal cord-related pain syndrome	J Orthop Sci. 2019 Sep; 24(5):798-804	Original Article
87	Okazawa H, Ikawa M, Jung M,他	高エネルギー 医学研究センター	Multimodal analysis using [11C]PiB-PET/MRI for functional evaluation of patients with Alzheimer's disease	EJNMMI Res. 2020 Mar; 10(1):30	Original Article
88	Tsujikawa T, Oikawa H, Tasaki T,他	高エネルギー 医学研究センター	Whole-body bone marrow DWI correlates with age, anemia, and hematopoietic activity	Eur J Radiol. 2019 Sep; 118:223-230	Original Article

小計 7 件
計 88 件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
- 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
- 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
- 5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
- 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	☒ 有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	☒ 有・無
・ 手順書の主な内容 1. 倫理審査申請から承認、研究の実施までの流れ 2. 倫理審査申請書類の作成について 3. 倫理審査の申請から委員会審査、承認まで 4. 研究計画の実施状況報告及び終了（中止）報告について 5. 重篤な有害事象及び不具合への対応 6. 倫理審査委員会に関する情報 7. 倫理審査申請に関する問い合わせ先	
③ 倫理審査委員会の開催状況	（委員会開催） 年 12 回 （委員長及び委員による迅速審査） 年 380 回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
- 2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	☒ 有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	☒ 有・無
・ 規定の主な内容 1. 趣旨 2. 委員会の設置 3. 組織 4. 申告書の提出等 5. 審査の方法 6. 審査結果の報告 7. 指導等 8. 事務 9. 雑則	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委	年 12 回

員会の開催状況	
---------	--

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 16 回
・研修の主な内容 福井大学臨床研究講習会 1. 令和元年5月17日（金）（基礎講習） 「人を対象とする医学系研究に関する基礎知識と本学での手続きについて」 渡邊 享平（本院 医学研究支援センター） 2. 令和元年6月17日（月） 「医師主導治験による医薬品・医療機器の開発」 小林 史明（株式会社CTD） 3. 令和元年9月18日（木） 「生物統計家が話す医学研究のいろは ～もし、医学統計担当が自身の病院にやってきたら～」 盛 啓太（静岡がんセンター 臨床研究支援センター 研究推進室） 福井大学臨床研究講習会（C-CAM webセミナー） 1. 平成31年4月25日（火） 「臨床研究の歴史と被験者保護・臨床研究における研究不正と行動規範・研究実施にあたって考慮すべき倫理関連事項」 西脇 聡史（名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター） 2. 令和元年5月20日（月） 「医薬品・医療機器開発」 清水 忍（名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター）	

3. 令和元年6月4日(火)

「(1)臨床研究方法論入門」

「(2)第1回モニタリング講習会」

木下 文恵・田村 奈津子(名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター)

4. 令和元年7月23日(火)

「統計学的有意性と臨床的有意性の違い/絶対・相対リスクと必要治療数」

奥山 ことば(MSD株式会社メディカルアフェアーズメディカルリサーチコンサルタント)

5. 令和元年8月6日(火)

「臨床研究に関する法令」

植田 康平(名古屋大学先端医療開発部)

6. 令和元年9月27日(金)

「臨床試験の計画と準備 実施医療機関の組織と運用」

加藤 勝義(名古屋大学医学部附属病院 先端医療開発部)

7. 令和元年10月4日(金)

「プロペンシティスコアの基礎と応用」

中枋 昌弘(名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻データサイエンス)

8. 令和元年10月31日(木)

「被験者の募集、組み込みと参加継続」

安藤 昌彦(名古屋大学医学部附属病院 先端医療開発部データセンター)

9. 令和元年11月19日(火)

「がん臨床試験におけるエンドポイントとRestricted mean survival time」

平川 晃弘(東京大学大学院 医学系研究科 生物統計情報学)

10. 令和元年12月6日(金)

「試験の実施」

鍬塚 八千代(名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター)

1 1. 令和2年1月8日(水)

「(1)安全性入門」

「(2)モニタリング講習会」

天野 学・林 直子 (名古屋大学医学部附属病院 先端医療開発部)

1 2. 令和2年2月5日(水)

「臨床研究と知的財産」

五十部 穰 (名古屋大学医学部附属病院 先端医療開発部)

1 3. 令和2年3月17日(火)

「品質マネジメントシステム」

植田 康平 (名古屋大学医学部附属病院 先端医療・臨床研究支援センター)

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

各領域（診療科）において、専門研修プログラムを有し、修練目標・研修方略等が掲げられた詳細なカリキュラムに沿って研修し、それぞれの専門医取得を目指す。

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	132.8 人
-------------	---------

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
山内 高弘	血液・腫瘍内科	教授	31年	
岩崎 博道	感染症・膠原病内科	教授	34年	
中本 安成	消化器内科	教授	31年	
濱野 忠則	脳神経内科	准教授	30年	
石塚 全	呼吸器内科	教授	36年	
此下 忠志	内分泌・代謝内科	准教授	34年	
岩野 正之	腎臓内科	教授	33年	
茅田 浩	循環器内科	教授	34年	
五井 孝憲	消化器外科	教授	31年	
前田 浩幸	乳腺・内分泌外科	准教授	31年	
腰地 孝昭	心臓血管外科	教授	36年	
佐々木 正人	呼吸器外科	准教授	32年	
横山 修	泌尿器科	教授	38年	
長谷川 稔	皮膚科	教授	29年	
中井 國博	形成外科	准教授	25年	
松峯 昭彦	整形外科	教授	34年	
松峯 昭彦	リハビリテーション科	教授	34年	
稲谷 大	眼科	教授	25年	
藤枝 重治	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	34年	
吉村 仁志	歯科口腔外科	教授	21年	
大嶋 勇成	小児科	教授	35年	
吉田 好雄	産科婦人科	教授	32年	
小坂 浩隆	神経科精神科	教授	22年	
菊田 健一郎	脳脊髄神経外科	教授	29年	
重見 研司	麻酔科蘇生科	教授	36年	
木村 浩彦	放射線科	教授	33年	
林 寛之	救急科	教授	34年	
今村 好章	病理診断科	准教授	34年	

（注） 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

（注） 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

（注） 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・シミュレーショントレーニング及び看護技術トレーニング ・研修の期間・実施回数 ・4月1日～6月25日 11回 ・研修の参加人数 ・看護師 45名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ① 管理研修 ② リフレクション研修 ③ 概念化スキルパワーアップトレーニング ・研修の期間・実施回数 ① 10月25日 ② 11月7日 ③ 1月15日 ・研修の参加人数 ① 看護師長 34名 ② 看護師長 29名 ③ 看護師長 40名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	医学部附属病院長 腰地 孝昭
管理担当者氏名	総務課長 小林 誠巳 経営企画課長 青池 正幸 医療サービス課長 清水 隆行 医療情報部長 菊田 健一郎 医療安全管理部長 秋野 裕信 感染制御部長 岩崎 博道 薬剤部長 後藤 伸之 放射線部長 木村 浩彦 ME機器管理部長 森岡 浩一

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院部総務課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		看護記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		検査所見記録	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		エックス線写真	各診療科
		紹介状	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	病院部医療サービス課 (カルテ庫)
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事労務課
		高度の医療の提供の実績	松岡キャンパス研究推進課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	松岡キャンパス研究推進課
		高度の医療の研修の実績	病院部総務課
		閲覧実績	病院部総務課
		紹介患者に対する医療提供の実績	病院部医療サービス課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院部総務課及び病院部医療サービス課
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医薬品安全管理部	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医薬品安全管理部	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医薬品安全管理部	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医薬品安全管理部	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	ME 機器管理部	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME 機器管理部	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME 機器管理部	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME 機器管理部	

			保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部	
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医薬品安全管理部	
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部	
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	診療情報管理部	
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部	
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部	
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医薬品安全管理部	
		監査委員会の設置状況	病院部総務課	
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部	
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部	
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院部医療サービス課	
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	総務部総務課	
		職員研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部	
		管理者が有する権限に関する状況	病院部総務課	
		管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	病院部総務課	
		開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	病院部総務課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲 覧 責 任 者 氏 名	医学部附属病院長 腰地 孝昭		
閲 覧 担 当 者 氏 名	病院部総務課長 小林 誠巳		
閲 覧 の 求 め に 応 じ る 場 所	管理棟会議室		
閲覧の手続の概要			
1. 諸記録の閲覧の申請を担当部署に行う。			
2. 申請内容を確認の後、閲覧資料の準備を行う。			
3. 所定の場所（主に管理棟の会議室）において閲覧。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0	件
	歯 科 医 師	延	0	件
	国	延	0	件
	地 方 公 共 団 体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： (1) 医療に係る安全管理の基本的考え方 (2) 医療に係る安全管理の体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 医療に係る安全確保の改善方策に関する基本方針 (5) 医療上の事故等発生時の対応に関する基本方針 (6) 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。） (7) 相談への対応に関する基本方針 (8) その他医療安全の推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 ・ 設置の有無（(有)・無） ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容： (1) 医療安全管理の指針に関すること。 (2) 医療安全管理の対策及び改善に関すること。 (3) 医療安全管理に係る指導及び助言に関すること。 (4) その他医療安全管理の重要事項に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 8 回
・ 研修の内容（すべて）： (1) 全職員を対象に令和元年8月9日外部講師による「立ち止まり物語る倫理のススメ～立ち止まり、選択を意識し、物語を共に紡ぐ～」について研修会を行った。 (2) 全職員を対象に令和元年9月26日「誤接続防止コネクタの導入について」「血糖管理の最新ツールについて」「放射線検査におけるグルコースモニタシステムの安全な運用について」について研修会を行った。 (3) 全職員を対象に令和元年10月9日「がん治療に関連する安全管理」について研修会を行った。 (4) 全職員を対象に令和元年10月30日「特定機能病院に求められる医療安全とチーム医療」について研修会を行った。 (5) 全職員を対象に令和元年11月6日外部講師による「医薬品副作用被害救済制度」について研修会を行った。 (6) 全職員を対象に令和元年12月3日「情報セキュリティと個人情報保護」「当院における医療関連機器圧迫創傷の現状と予防」について研修会を行った。 (7) 全職員を対象に令和2年1月31日「院内発生症例から学ぶ血栓塞栓症」について研修会を行った。 (8) 全職員を対象に令和2年2月20日「医薬品の価値を適切に評価するために」について研修会を行った。	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機関内における事故報告等の整備（(有)・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 各部署から報告されたオカレンスレポートは、医療安全管理部にて部署リスクマネージャー並びに現場から速やかに聴き取り調査・分析を行い、原因を究明している。さらに改善を要すると判断された重大な事例については、当該診療科長に是正措置を求め、改善策の有効性を確認・検討し、実施状況を検証している。 (2) 医療事故防止強化月間を定め、重要事項を決めて医療事故防止に取り組んでいる。 (3) 毎月2回実施部署を決め、院内パトロールを実施している。 (4) 各部門の管理担当者が参加するカンファレンスを週1回程度開催し、医療安全対策に係る取組の評価等を行っている。 (5) 日々院内を巡回し、各部門における医療安全対策の実施状況を把握・分析し、医療安全確保のために必要な業務改善のための具体的な対策を推進している。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
・ 指針の主な内容： (1) 院内感染対策に関する基本的な考え方 (2) 院内感染対策に関する管理体制 (3) 職員研修に関する基本方針 (4) 感染症発生状況の報告に関する基本方針 (5) 院内感染発生時の対応に関する基本方針 (6) 指針の閲覧に関する基本方針 (7) その他院内感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
・ 活動の主な内容： (1) 感染予防対策の確立に関すること。 (2) 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 (3) 感染源の調査に関すること。 (4) 感染予防に係る諸調査及び情報の収集に関すること。 (5) その他感染対策についての重要事項に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 6 回
・ 研修の内容（すべて）： (1) 全職員を対象に令和元年6月4日及び10日「耐性菌がわかる！」について研修会を行った。 (2) 全職員を対象に令和元年7月26日「わかる！感染症のFirst Step」について研修会を行った。 (3) 全職員を対象に令和元年9月30日外部講師等による「耐性菌を生み出さないための抗菌薬適正使用」について研修会を行った。 (4) 全職員を対象に令和元年11月5日「インフルエンザ対策は手指衛生から」について研修会を行った。 (5) 全職員を対象に令和2年1月10日「オリンピックイヤーの輸入感染症」「子どもの感染症から身を守るために」について研修会を行った。 (6) 全職員を対象に令和2年2月20日「新型コロナウイルス感染症の最新情報」について研修会を行った。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： (1) 感染症発生状況は、感染制御部に報告され、感染制御部のメンバーのうち医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたICTが日々モニタリングを行っている。また、1週間に1回程度、1ヶ月間で全病棟、患者に侵襲的な手術・検査を行う部署は2カ月で全部署を院内巡回し、現場確認を行っている。なお、内容により各部署における対策の確認が必要な場合は、感染制御部長より文書で改善を依頼し、各部署とのカンファレンスや現場のラウンド等で確認している。 (2) 感染制御部員が実施場所を決め、ラウンドを実施している。 (3) 部署のリンクナースはICNと連携し、各看護単位の感染対策上の問題点を抽出し、改善策を実施している。 (4) ICNが日々細菌室情報をもとに当該部署を巡回し、感染対策の確認と改善指導を行っている。 (5) 医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師で構成されたASTが検査データや抗菌薬使用状況を確認し、日々、感染症治療の早期モニタリングと主治医へのフィードバック、抗菌薬の適正使用の推進を行っている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： 1. 令和元年11月6日（水）：医薬品副作用被害救済制度について（副作用対策の重要性を学ぶとともに患者を支援するための制度を理解する） 2. 令和2年2月20日（木）：医薬品の価値を適切に評価するために（医薬品適正使用についての理解を深め適切な医療を提供する）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （①・無） ・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容： 医薬品の安全使用のための業務手順書の作成 医薬品の安全使用のための研修の実施 手順書に基づく業務実施状況の確認（各部署の自己点検） 院内の医薬品使用状況の把握並びに安全性情報の収集・評価・必要な情報の周知 未承認薬等の使用の把握と必要性や妥当性に関する検討 未承認薬等の使用に関する情報の共有（院内への情報提供）	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （①・無） ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例（あれば）： 禁忌使用事例：脳動脈瘤破裂によるクモ膜下出血の急性期（脳血管内手術治療後）に対するグルド注の使用 適応外使用事例：悪性神経膠腫に対するエクザール注射用の使用、角膜真菌症に対するブイフエンド静注用（院内製剤・点眼）の使用など ・ その他の改善のための方策の主な内容： PMDAメディナビ、SAFE-DI（商用データベースサービス）を活用した情報収集 副作用シグナルの自動検知システム（AVS）を活用した副作用早期発見や適正使用への介入 医薬品使用状況の把握と適正使用推進を目的とした調査薬品レポートの活用	

（注）前年度の実績を記入すること。

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 126 回
・ 研修の主な内容： ・ 新規購入の医療機器に関し、納品時に使用説明を含めた研修を行った。 ・ 指定されている定期研修対象機器に関して、年間計画を作成し研修会を行った。 ・ 臨床デモやレンタル機器に対して、使用予定者に対して研修を実施した。 ・ 新規採用職員を対象とした医療機器の研修を行った。	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (①・無) ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： ・ 重要医療機器に関し、年間保守計画を立てて定期的実施している。 ・ また、必要に応じて定期間隔で点検を実施している医療機器もある。	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (①・無) ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： ・ 術後良性門脈狭窄による難治性消化管出血（静脈瘤破裂）に対する門脈内ステント留置術で使用するステントに既製品が無いため、腸骨動脈用ステントを用いることを承認。 2020 年 8 月末までに 2 例の臨床報告あり。 ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ メーカーや PMDA から発信されている情報を入手し、必要に応じて医療機器安全管理部会にて報告および改善対策をとっている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有)・無
・ 責任者の資格 (医師)・歯科医師) ・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 医療安全担当の副病院長を医療安全管理責任者とし、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括している。	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (8名)・無
③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 ・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況 医薬品情報室による国内外の医薬品情報の収集・整理 (PMDA メディナビの活用、SAFE-DI の活用、文献情報等)、調剤時の疑義照会記録のレビュー、あらかじめ定義した医薬品について医師の処方と共に薬剤部に出力されるレポートを活用し状況を確認している。 病棟薬剤師からの医局、病棟等カンファレンスにおける情報提供、医薬品情報室による情報提供、さらに必要に応じてリスクマネージャー会議で周知等を行っている。 医療安全管理部門カンファレンス並びに医療安全管理パトロールにて、当該周知状況の確認を行っている。 ・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 医薬品安全管理部会で承認した「使用承認」情報の共有、医局カンファレンス等で病棟薬剤師が知り得た情報の報告、処方薬の適応等に関する確認依頼により、対応が不十分な事例については、医師に対して必要な手続きの依頼を行うなど対応している。 ・ 担当者の指名の有無 (有)・無) ・ 担当者の所属・職種： (所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種) (所属： ， 職種)	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有)・無
・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ((有)・無) ・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： ・ 毎月定期的に全身麻酔下手術症例に関する IC 記載について遵守状況を確認している。 ・ 医療者側・患者側の同席者、患者家族の説明時の反応をカルテに記載するように指導している。	

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ・ 日々診療録等の記載内容の確認を行っている。確認の結果指導が必要と判断された事項については、確認実施者から直接当該記録の記載者に連絡し指導している。	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
・ 所属職員：専従（５）名、専任（２）名、兼任（２１）名 うち医師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（６）名 うち薬剤師：専従（１）名、専任（ ）名、兼任（１）名 うち看護師：専従（２）名、専任（ ）名、兼任（８）名 （注）報告書を提出する年度の１０月１日現在の員数を記入すること ・ 活動の主な内容： ・ 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会の庶務 ・ 報告されたオカレンスレポートの調査・分析 ・ ３b以上のオカレンスが発生した場合の診療録及びインフォームド・コンセントの確認、オカレンス審議委員会で用いられる資料の作成、並びに議事録の作成・保存 ・ オカレンス審議委員会で究明された原因及び改善策等の審議結果についての当該部署への指導 ・ 各部署リスクマネージャーへの支援、連絡調整 ・ 医療安全の確保のための対策の推進 ・ 職員の医療の安全に関する意識の向上の確認 ・ 手術時静脈血栓塞栓予防策実施、中心静脈カテーテル留置における合併症、静脈血栓塞栓予防行為が行われなかった入院患者の静脈血栓塞栓症のモニタリング実施 ・ 院内医療安全パトロールを実施し、医療安全の確認事項シートを用いて職員の医療安全の認識を確認している。 ※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。	
⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	
・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（７件）、及び許可件数（５件） ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無） ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無） ・ 活動の主な内容： ・ 高難度新規医療技術を用いた医療の提供の適否決定に関すること。 ・ 高難度新規医療技術を用いた医療の提供後の確認に関すること。 ・ その他高難度新規医療技術を用いた医療の提供に関すること。 ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無） ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）	

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（46 件）、及び許可件数（47 件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒・無）
- ・活動の主な内容：
 - ・未承認新規医薬品等を用いた医療の提供の適否決定に関すること。
 - ・当該未承認新規医薬品等を使用した症例についての確認に関すること。
 - ・その他未承認新規医薬品等を用いた医療の提供に関すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 273 件
- ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 59 件
- ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
 - ・影響レベル 3b 以上のオカレンスレポート並びに死亡退院報告は、速やかに病院長に報告している。報告状況の確認として、死亡退院報告については、医療安全管理部が全ての死亡退院患者の診療記録を点検し、当該主治医からの報告状況を確認し、報告されていない場合には当該診療科に適切に報告するよう指導している。また、オカレンスレポートについては、多職種から報告されており、他部署で発生したオカレンスについても関わりのあった他部署からの報告があるため医療安全管理部で発生状況が把握でき、報告すべき職員が報告していない場合には、適切に報告するよう指導している。
 - ・部署リスクマネージャーに対して、オカレンス報告の意義、部門リスクマネージャーの責務について指導している。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（☒（病院名：東京医科歯科大学医学部附属病院）・無）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒（病院名：筑波大学附属病院）・無）
- ・技術的助言の実施状況
 - ・令和元年 10 月 31 日（木）に実施

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
「患者相談窓口」を設置し、患者やその家族からの医療安全に関する相談に適切に応じる体制を確保している。

⑫ 職員研修の実施状況

・ 研修の実施状況

全職員を対象に令和元年 10 月 30 日「特定機能病院に求められる医療安全とチーム医療」について研修を行った。（e-learning 実施）

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・ 研修の実施状況

- ・ 管理者：令和 2 年 1 月 7 日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2019 年度特定機能病院管理者研修（1 日間）」受講
- ・ 医療安全管理責任者：令和元年 10 月 27、28 日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2019 年度特定機能病院管理者研修（2 日間）」受講
- ・ 医薬品安全管理責任者：令和元年 10 月 11 日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2019 年度特定機能病院管理者研修（1 日間）」受講
- ・ 医療機器安全管理責任者：令和元年 10 月 11 日、公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する「2019 年度特定機能病院管理者研修（1 日間）」受講

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

規則第7条の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

管理者に必要な資質及び能力に関する基準
・ 基準の主な内容 1. 医療安全管理業務に関する知見・経験 医師免許を有する臨床研修等修了医師であり、かつ、特定機能病院における医療安全に関わる業務の経験と患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有している者 2. 病院の管理運営に必要な能力 診療、教育、研究という大学病院のミッションに精通し、医療機関の管理者としてリスク対応を含めた高いマネジメント能力を有するとともに、多職種で構成される病院職員の意見に耳を傾けつつ、迅速な意思決定を行う優れたリーダーシップを発揮できる者 3. 病院の経営に必要な能力 医療を取り巻く様々な外的変化に適切に対応し、医学部附属病院の安定的財政基盤を確立して、病院経営を担う能力を有している者 ・ 基準に係る内部規程の公表の有無（ ☒ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法 福井大学医学部附属病院ホームページに掲載

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

前年度における管理者の選考の実施の有無	有 ・ ☒ 無			
・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無（ 有 ・ 無 ） ・ 公表の方法				
管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由				
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	特別の関係
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無
				有 ・ 無

規則第9条の2 3 第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の
設置及び運営状況

合議体の設置の有無		①・無	
・合議体の主要な審議内容 病院に関する規則等、決算及び予算配分、経営方針、概算要求事項、 診療教授等の称号付与 ・審議の概要の従業者への周知状況 審議の概要は構成員及び陪席者から、所属職員等に周知している。 ・合議体に係る内部規程の公表の有無（①・無） ・公表の方法 福井大学規程集（公開用）ホームページに掲載 ・外部有識者からの意見聴取の有無（有①無）			
合議体の委員名簿			
氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
腰地 孝昭	○	医師	病院長
山内 高弘 ほか 30 名		医師	診療科長等
後藤 伸之		薬剤師	薬剤部長
大北 美恵子		看護師	看護部長
安岡 浩憲		事務職員	病院部長

規則第 15 条の 4 第 1 項第 1 号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（☒有・無）
- ・ 公表の方法
福井大学規程集（公開用）ホームページに掲載
- ・ 規程の主な内容
病院の管理運営をつかさどり、所属職員を監督する。
- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割
副病院長は病院長の職務を補佐する。
副病院長の担当：医療安全、教育、研究、診療、経営、看護
- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況
特定機能病院管理者研修（令和2年1月7日 主催：公益財団法人 日本医療機能評価機構）
トップマネジメント研修（令和2年1月24日 主催：厚生労働省）

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	①有・無
・ 監査委員会の開催状況：年 2 回 ・ 活動の主な内容： ・ 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者、医療安全管理部及び医療安全管理委員会の業務状況について、病院長等から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。 ・ 必要に応じて、監査の結果に基づき、病院長に対し医療安全管理についての是正措置を講じるよう意見を表明する。 ・ 監査結果及び意見表明を公表する。 ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（①有・無） ・ 委員名簿の公表の有無（①有・無） ・ 委員の選定理由の公表の有無（①有・無） ・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無（①有・無） ・ 公表の方法： 福井大学医学部附属病院ホームページに掲載	

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
伊藤 透	金沢医科大学病院医療安全部長・教授	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
安川 繁博	福井県医師会副会長		医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
吉川 奈奈	杉原・きっかわ法律事務所		法律に関する識見を有する者	無	1
草桶 秀夫	前福井工業大学教授		医療を受ける者の立場から意見を述べることができる者	無	2

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

・体制の整備状況及び活動内容

内部統制システム運用規則に基づき、内部統制システムの整備及び運用を推進し、その状況を把握し、重大な問題が発生した場合又は発生のおそれがある場合には、必要な緊急措置及び是正措置を執る。

・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

・ 内部規程の公表の有無 (☒ 有 ・ ☐ 無)

・ 公表の方法

福井大学規程集（公開用）ホームページに掲載

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 (役員会) 毎回、病院長が出席し、病院の経営状況や病院の取組等を説明している。 (病院運営諮問会議) 病院長の諮問に応じて、経営等に関する病院運営の重要事項、病院の診療、教育及び研究に関する重要事項について審議し、病院長に対して助言又は勧告を行う。 ・ 会議体の実施状況（役員会：年 11 回、病院運営諮問会議：年 2 回） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（☒有・無） （役員会：年 11 回、病院運営諮問会議：年 2 回） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（☒有・無） ・ 公表の方法 福井大学規程集（公開用）ホームページに掲載			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：福井大学医学部附属病院運営諮問会議			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
安田 年博	福井大学理事	○	
相田 俊夫	大原記念倉敷中央医療機構 代表理事副理事長		有・ ☒ 無
池内 昭彦	福井放送株式会社 代表取締役社長		☒ 有・無
池端 幸彦	福井県医師会長		有・ ☒ 無
川田 達男	セーレン株式会社 代表取締役 会長兼最高経営責任者		☒ 有・無
高山 一夫	京都橘大学現代ビジネス学部 教授		有・ ☒ 無
林 篤志	富山大学附属病院 病院長		有・ ☒ 無
松村 理司	医療法人社団洛和会 総長		有・ ☒ 無
山口 明夫	福井医療大学 学長		有・ ☒ 無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合
等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 通報件数 (年 0 件) ・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (☒ 有 ・ 無) ・ 周知の方法 ・ 必修研修会で周知している。オカレンス報告システムのトップページに、情報提供受付窓口を掲載している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	☒ 有 ☐ 無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 BSIグループジャパン株式会社 最初の認証取得日 平成15年 9月10日 最新の更新日 平成30年 8月 5日	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	☒ 有 ☐ 無
・情報発信の方法、内容等の概要 1. 病院公式ホームページの公開 2. 情報誌「フロンティア」の発行・地域への配布（2回/年） 3. 「病院のご案内」の発行・地域医療機関への配付（1回/年） 4. 福井街角放送による「福大病院まちかどラジオ」の番組内（約10分）で病院スタッフが医療情報を発信（2回/月） 5. 「福井大学病院の得意な治療がわかる本」を発刊し、県内主要書店及び院内売店で販売 その他、地域医療機関、図書館、公民館等への配付 6. 地域医療連携部看護師、ソーシャルワーカー及び事務職員が、各診療科における得意な診療のリーフレット等を持参して、福井県内及び石川県加賀地区の医療機関を訪問して、本院の情報提供を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 がん診療推進センター（各診療科）がんサーボードの実施 歯科の周術期における口腔機能の管理（歯科口腔外科と各診療科） 精神障害者における身体合併症の管理（神経科精神科と各診療科） 脊椎脊髄外科ユニット外来の設置（脳脊髄神経外科と整形外科）	